

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くるみ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月25日		～ 令和7年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年2月25日		～ 令和7年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育スペースが十分確保されている。	子どもたちが安全で動きやすいよう玄関やトイレにスロープや手すりを設置したり家具等の配置を考えている。	子どもたちが落ち着けるような個別スペースを確保できるようにする。
2	子どもたちが楽しめるプログラムを行っている。	お出かけを多く行っているので子どもたちに楽しんでもらえている。	子どもたちが大好きな場所は定番化したり、新たに楽しめる場所を探せるよう職員一人一人が日頃から周囲にアンテナを張り巡らせるようにしていく。
3	保護者が安心感を持って子どもたち通所させている。	子どもたちが安全で楽しみながら通所できるように日々のプログラム等を考えている。	子どもたちが如何に楽しみながら療育ができるよう職員同士で意見を出し合い日々のプログラムを考えられるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民等との交流が少ない。	コロナ禍以降、地域の住民や子どもたちとの交流が希薄になっている。	季節ごとの催事などで地域の住民や子どもたちが参加できるようなイベントを考え参加してもらえるよう呼びかけて地域との交流が図れるようにする。
2	関係機関等との連携が不十分。	問題を抱えている子どもについては関係機関とも連携をとりチームで支援に当たっているが、そうでない子どもについては特に連携を取っていない。	特に学校との連携を密にし学校での様子を把握し支援に生かせるようにする。またデイでの様子を学校に伝え学校での支援にも役立ててもらえるよう情報共有を図れるようする。
3	保護者会など保護者間の交流がほとんどない。	コロナ禍以降保護者を集めてのイベントを殆ど行っていない現状。	保護者等家族も参加できるイベントを考え日頃の悩み事の相談や保護者同士の交流などを図り家庭での支援に役立ててもらえるようにする。